

## 編集後記

本号の巻頭言は早稲田大学の依田照彦教授にお願いいたしました。

性能設計を支える構造解析技術と題して、設計法の変遷と性能設計の考え方、また技術者としてこれから取組むべきテーマについてわかりやすく述べられております。先生にはご多忙のところ玉稿をお寄せ頂き、誠に有り難うございました。誌面を借りまして厚く御礼申し上げます。

本文では、まず宮地の新しい製品についての紹介を掲載しております。QS Slab、QS Bridge、FRP合成床版等、異種材料を組み合わせた合理的かつ経済的な構造となっており、実績も増えて参りました。ご参照いただければと承ります。その他には、補修・補強に関する投稿があります。皆様ご承知のように昭和39年の東京オリンピック前後およびそれ以降に施工された橋梁は、膨大な数に上ります。供用を開始してから40年経過し、何らかの対策が必要な橋梁が増えて来ております。社会資本であるこれらの橋梁に対して、適切なメンテナンスを行い、安全に長く使い続けることも重要になっています。今後ともその成果を宮地の技術として報告出来れば幸いです。

執筆者を始め多くの関係者の御協力により本号を発刊することが出来たことに感謝致します。

## 宮地技報編集委員会

委 員 長	高 橋 亘				
副 委 員 長	能 登 宥 愿	太 田 武 美			
委 員	岩 下 宏*	上 原 正	佐 藤 浩 明		
	田 中 伸 尚	永 見 研 二	中 村 佐 吉		
	西 垣 登	牧 野 克 彦*	松 本 泰 成		
	宮 崎 好 永	百 瀬 敏 彦	矢ヶ部 彰		
	矢 崎 満	山 下 久 生*	吉 川 薫		

\*印 事務局兼務

## 宮地技報 第20号

発行日 平成17年3月25日

発行所 株式会社宮地鐵工所

〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町7番5号

(豊和大伝馬町ビル) TEL 03(3639)2111(代)

印刷所 望月印刷株式会社